

資料-2

第2回運営審議会

H29. 11. 1(水)

現行の水道ビジョンの振り返りと 今後の取組の方向性



01.目次



現行の水道ビジョン(以下、現ビジョン)の振り返り

02. 現ビジョン策定時の背景および基本施策の確認①
03. 現ビジョン策定時の背景および基本施策の確認②
04. 一元化事業の推進
05. 民間活用の推進
06. 計画的な施設更新
07. 財政の健全化
08. 現ビジョンの給水収益予測の振り返り

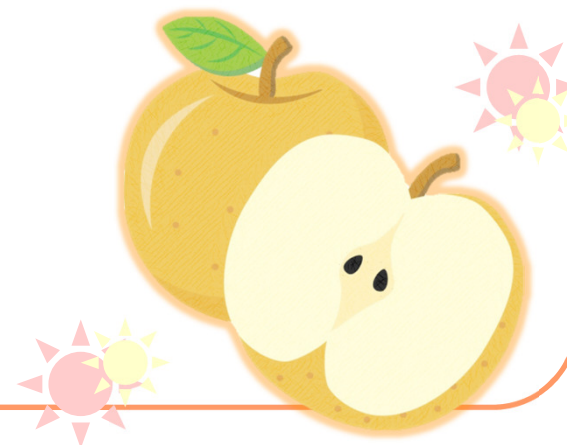


荒尾市企業局キャラクター「あらぞうくん」



今後の事業の傾向予測

- 09. 今後10年の事業の傾向予測①
- 10. 今後10年の事業の傾向予測②
- 11. 今後10年の事業の傾向予測③
- 12. 事業環境の変化



新ビジョン(案)策定に向けて必要な施策案(方向性)

- 13. 新ビジョン(案)策定に向けての施策案
- 14. 現ビジョンの概要と新ビジョン(案)との関係
- 15. その他 必要と認識する取組の方向性

02.現ビジョン策定時の背景および基本施策の確認①



現ビジョン策定時の事業環境(平成21年)

①一元化事業が重視されていた

⇒水利権取得(平成20年度)・ありあけ浄水場の建設着手(平成20年度)

⇒ありあけ浄水場の確実な稼働(平成24年度)と

一元化の確実な切替(平成30年度目標)が重視

②経営状況は、他の事業体と比較しても大きな課題がないとの認識

⇒ありあけ浄水場建設による減価償却費、支払利息の増加は懸念

③災害対策は、現在ほどの危機管理意識はなし

⇒平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震の以前

現ビジョンの基本理念

安全でおいしい水の安定的な供給

目標年度

平成21年度～平成30年度



03.現ビジョン策定時の背景および基本施策の確認②



安全、安心、安定、環境の4つを方針として以下の基本施策を策定

	基本施策	自己評価	概要
安全	1. 水質強化の管理	B	化学物質PCPの水質管理強化
	2. 地下水の保全	C	適正揚水量の確保と流向調査・水質調査の実施
	3. 水道施設の再構築	A	一元化事業推進：ありあけ浄水場の建設・運用 ⇒ 済
	4. 小規模水道管理	C	貯留槽設置者への指導・情報提供、台帳整備
安心	1. 市民サービスの向上	B	料金収納方法の多様化、情報提供の充実
	2. 運用体制の整備	B	災害時マニュアルの整備・訓練、関連機関との連携強化
	3. 施設の耐震化	C	基幹施設、管路の耐震化、緊急遮断弁の設置完了 ⇒ 継続
安定	1. 計画的な施設更新	C	施設診断および更新計画策定、老朽管更新
	2. 業務の効率化	A	民間委託の実施検討 ⇒ 済
	3. 財政の健全化	C	企業局の設立、水道料金体系の見直し ⇒ 継続
	4. 技術基盤の確保	C	資格取得・研修の実施、業務マニュアルの整備・見直し
	5. 広域化の検討	D	広域化に関する調査・研究の実施
環境	1. 省エネルギーの推進	B	漏水調査実施、漏水多発路線の塩ビ管更新、ポンプ圧力適正化
	2. 自然エネルギーの有効利用	D	自然エネルギーの導入
	3. 環境対策の取組強化	D	環境マネジメントシステムの導入
	4. 水循環・資源環境	B	発生土の再利用、汚泥の有効利用

自己評価凡例
A：達成
B：目標達成に向けて進捗
C：課題があり進展していない
D：未実施

04.一元化事業の推進

【課題】一元化区域の給水人口拡大による地下水の不足

【結果】①菊池川の水利権（8000m³/日）の取得

②ありあけ浄水場の運用開始により、水質及び適正な取水量を確保



05.民間活用の推進

【課題】 民間の技術力を活用する余地が残されている
【結果】 平成21年より、ありあけ浄水場の新設・運営をDBO方式で実施
平成28年4月より荒尾市水道事業等包括委託開始

ありあけ浄水場の新設・運営

設計・建設・維持管理（15年間）
を一括して民間委託（DBO方式）

設計
(Design)

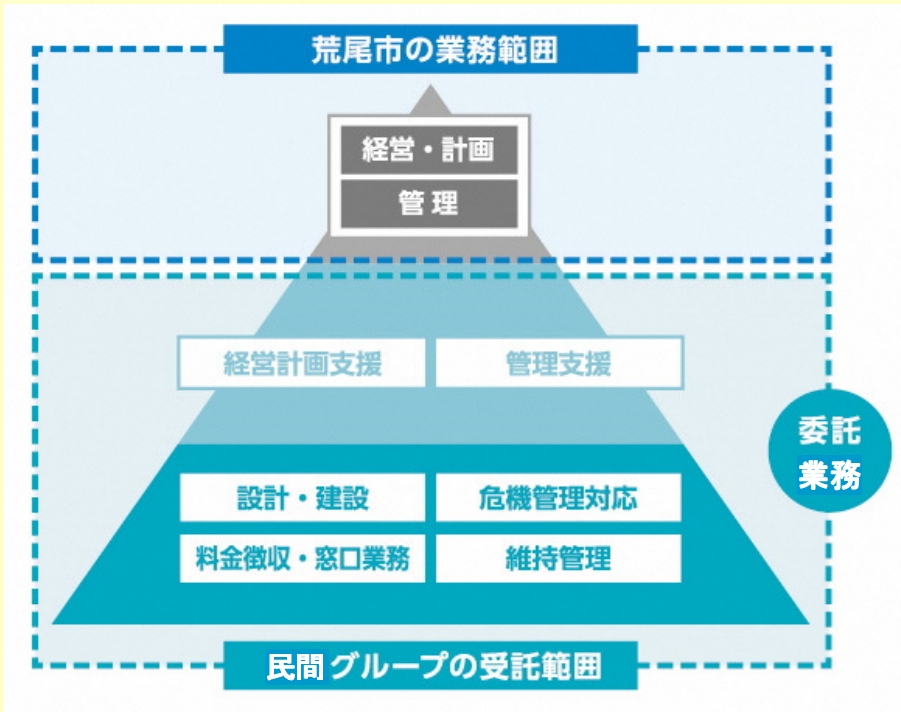
建設
(Build)

維持管理
(Operate)



水道事業等包括委託

水道事業全体に関する業務を
包括的に民間委託

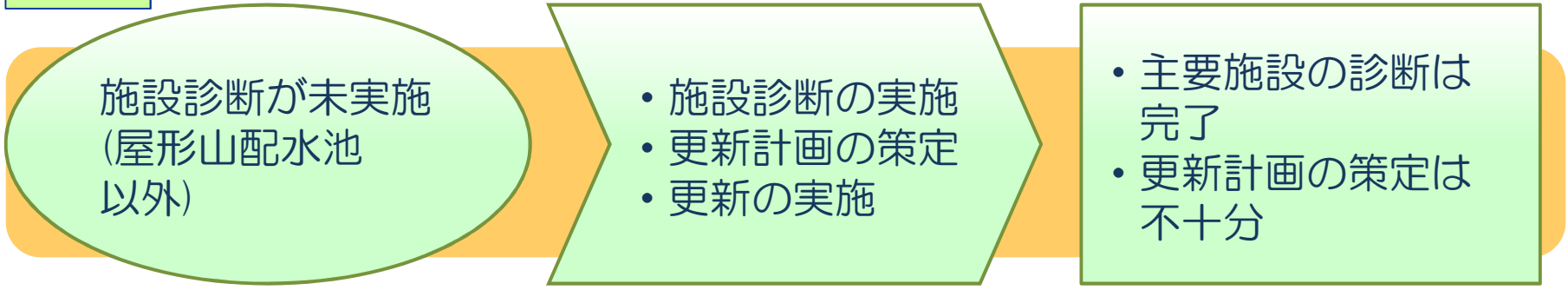


06.計画的な施設更新

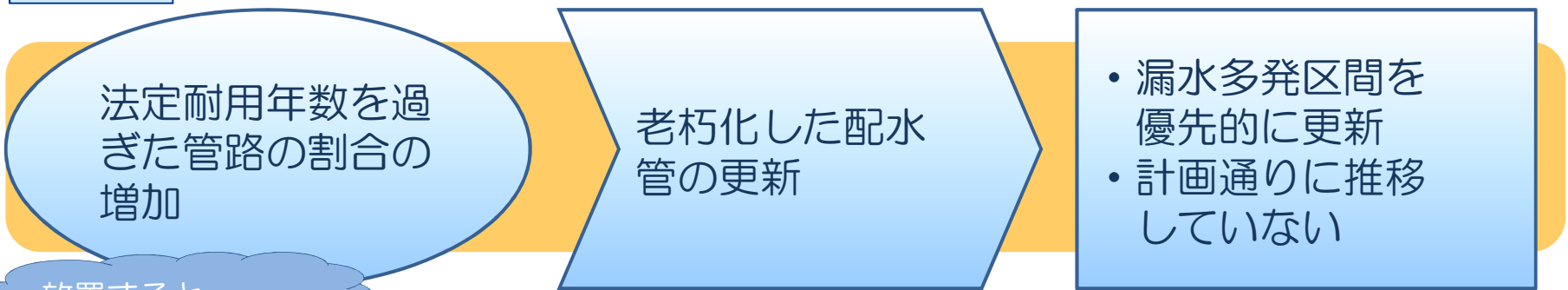


策定時の課題	施策	結果
--------	----	----

施設

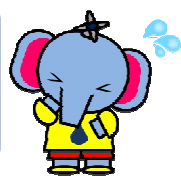


管路



放置すると…

- 不安定な水供給
- 漏水対応の費用増
- 道路陥没事故の誘発等



07.財政の健全化

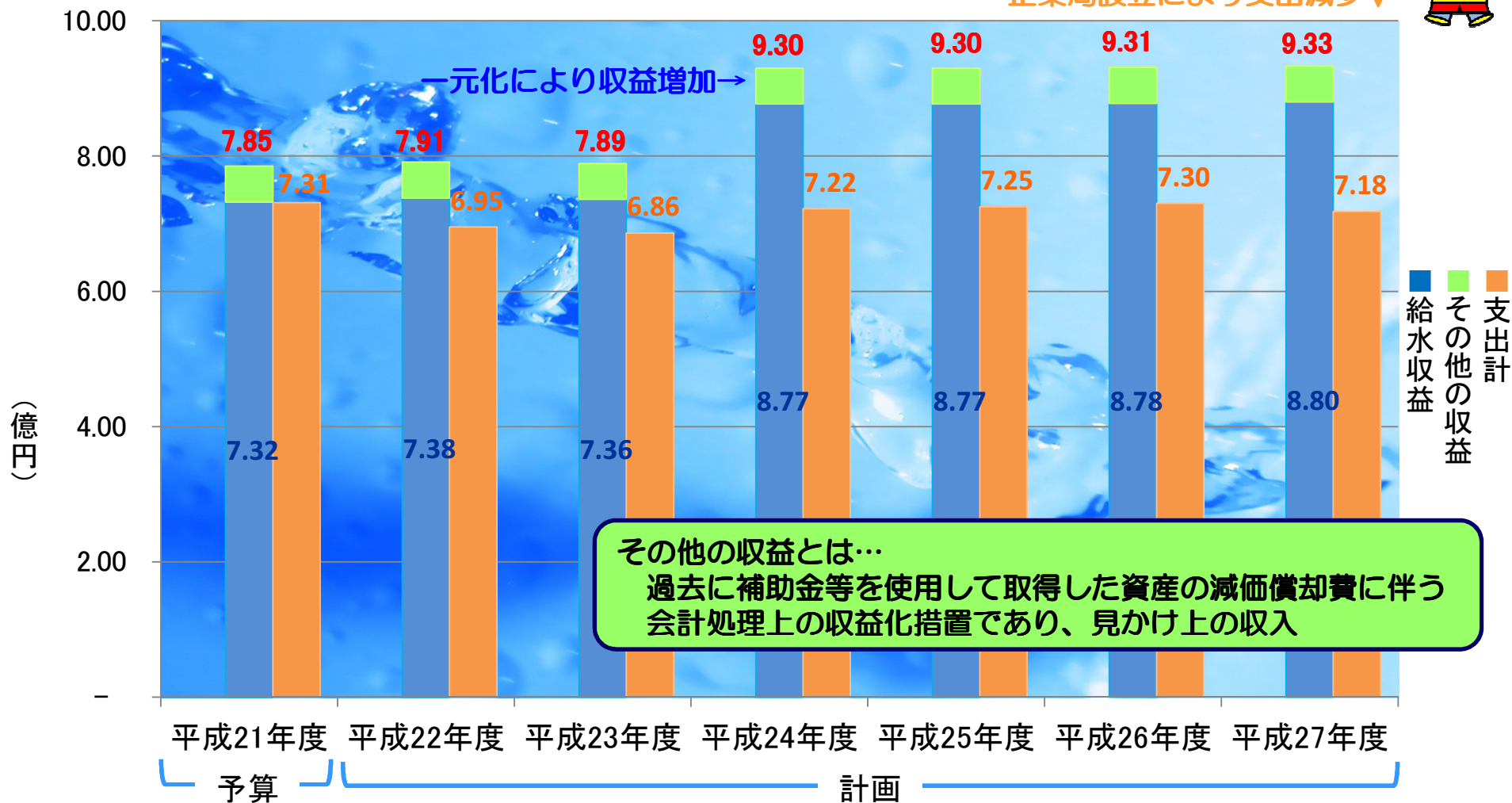
【課題】 事業の効率化

【結果】 平成26年4月より水道局と下水道課を統合し、「荒尾市企業局」を設立

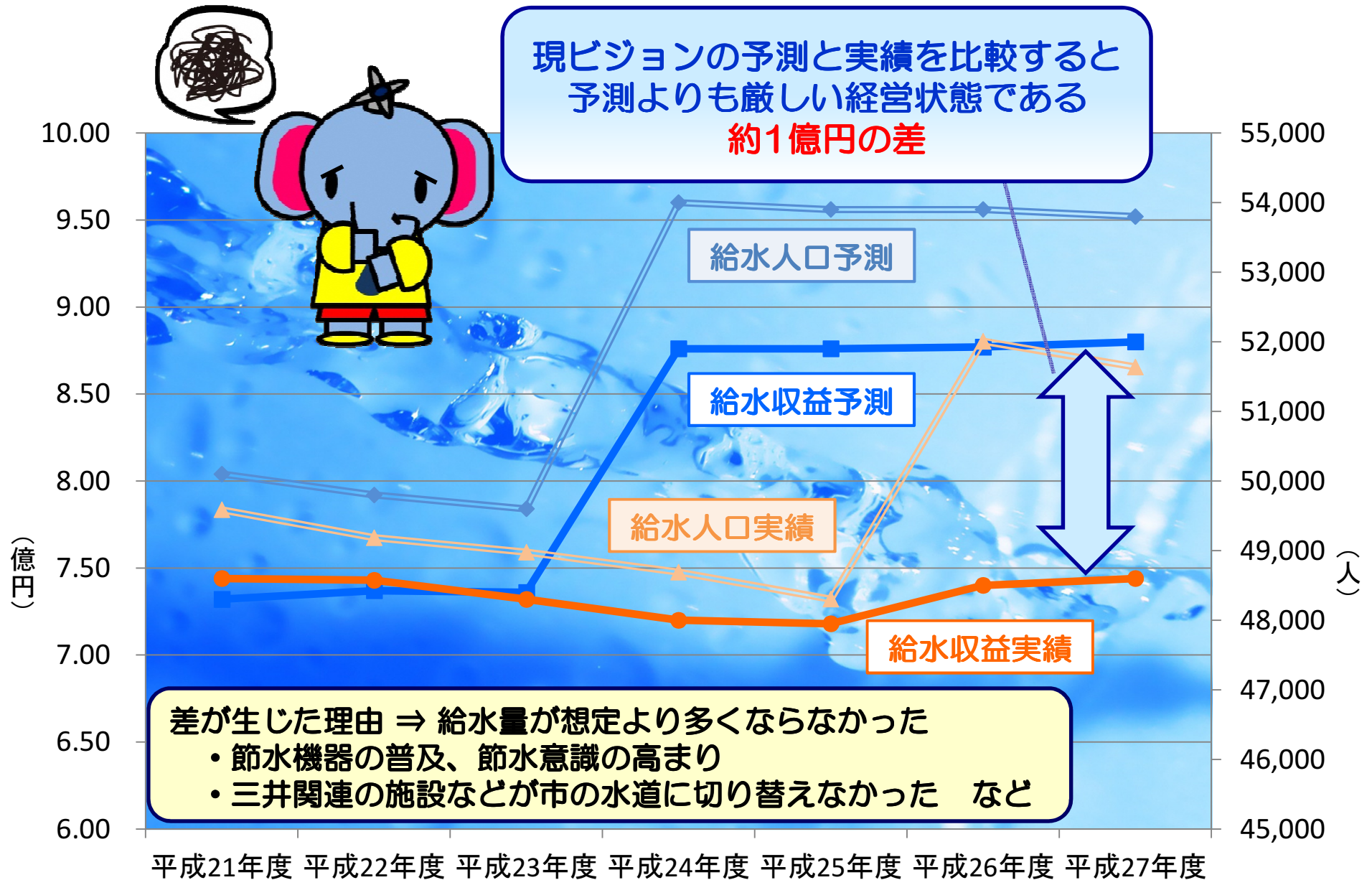


現ビジョン時に策定した3条収支計画（見込み）

企業局設立により支出減少↓

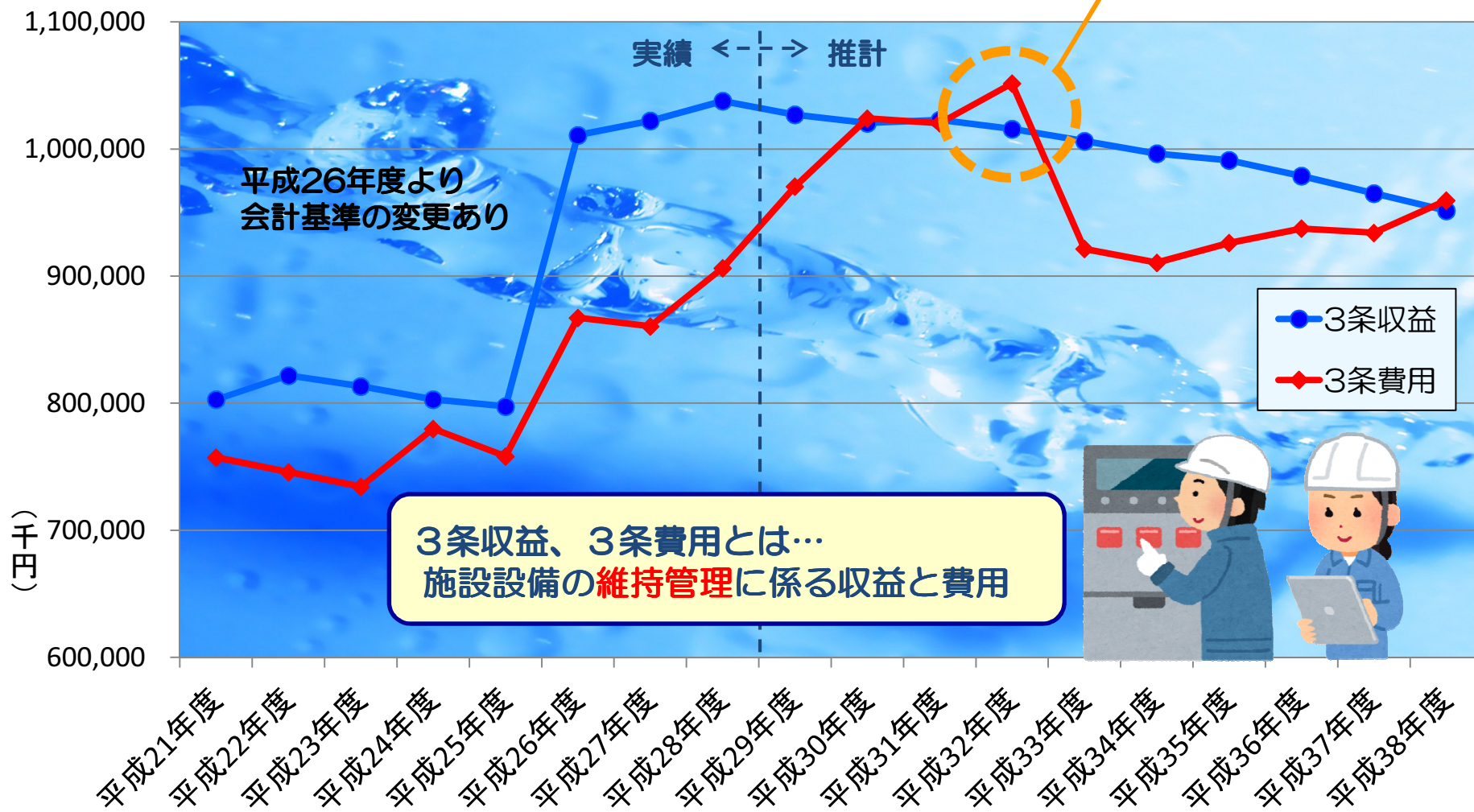


08.現ビジョンの給水収益予測の振り返り



09.今後10年の事業の傾向予測①

平成32年度あたりから3条収益と3条費用が逆転し、事業の赤字が発生するとの予測

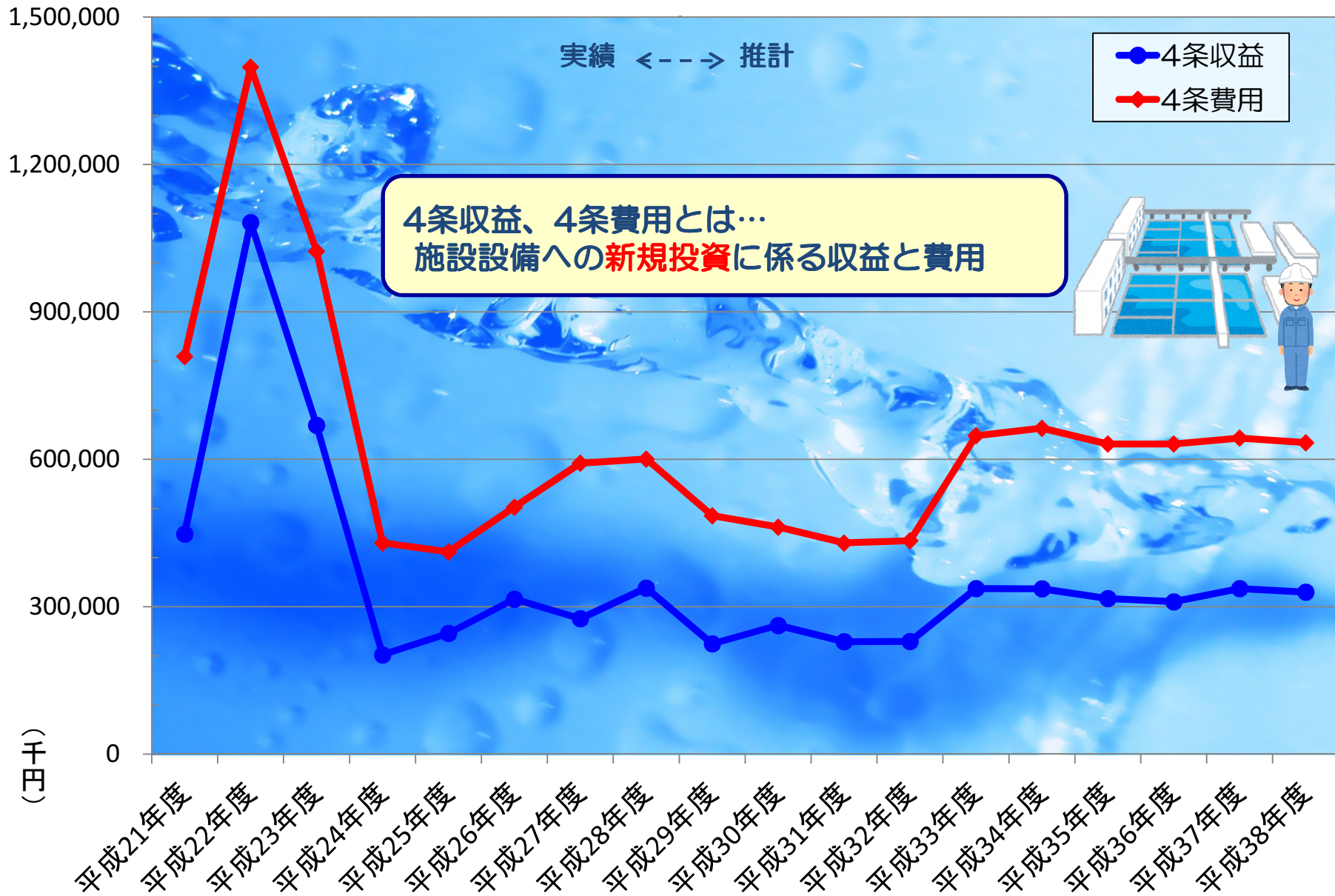


平成26年度より
会計基準の変更あり

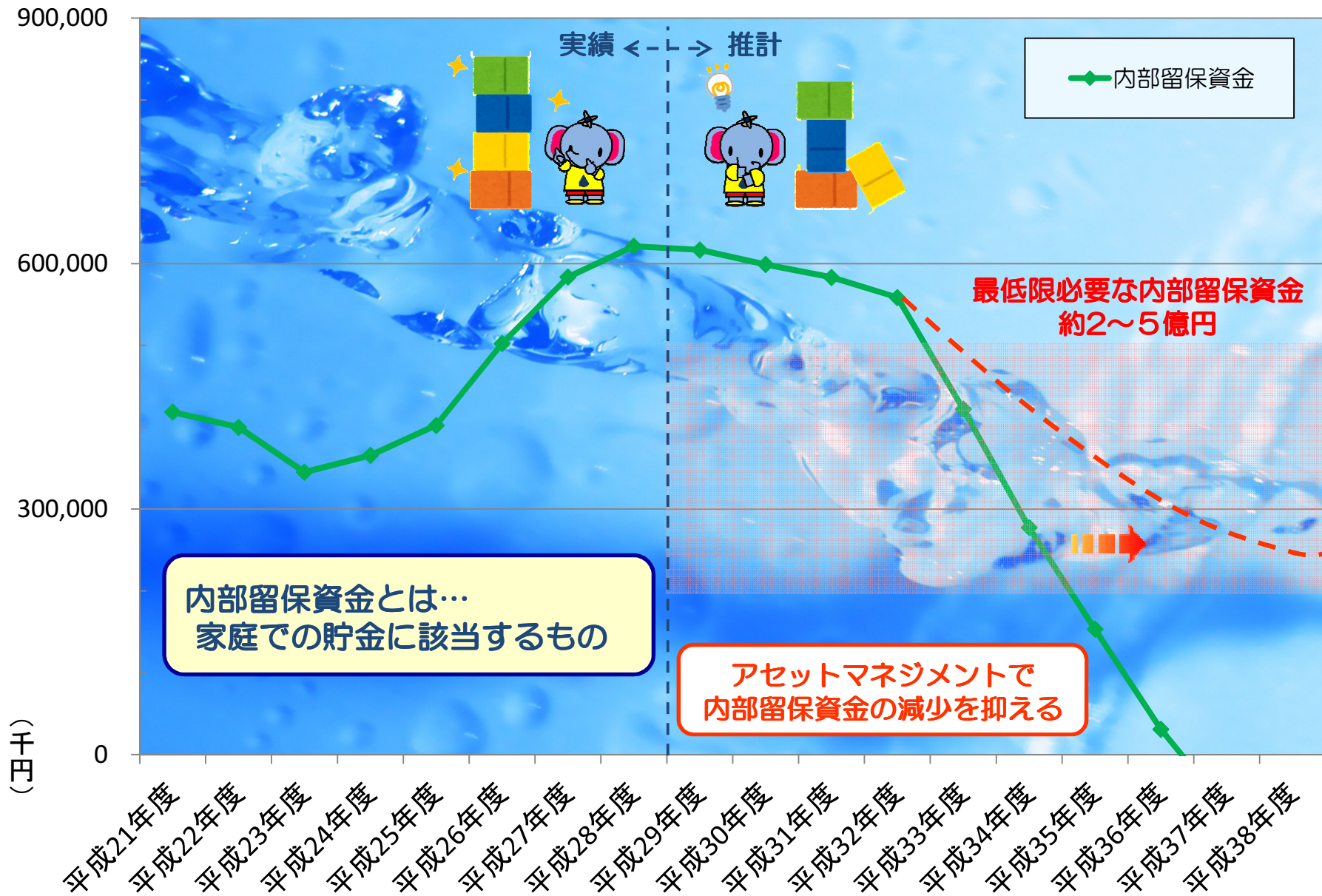
3条収益、3条費用とは…
施設設備の維持管理に係る収益と費用



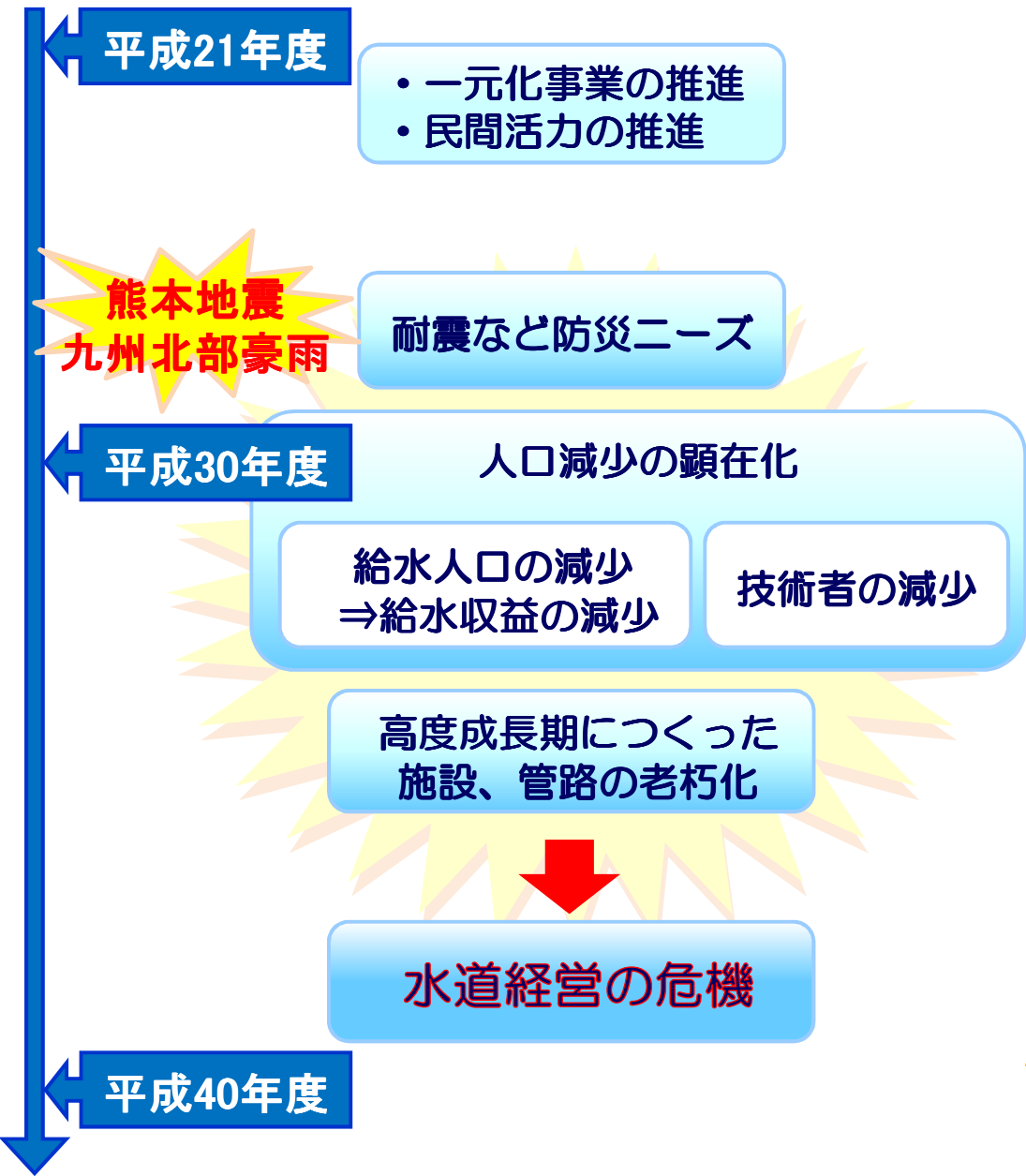
10.今後10年の事業の傾向予測②



11. 今後10年の事業の傾向予測③



12. 事業環境の変化



13.新ビジョン（案）策定に向けての施策案

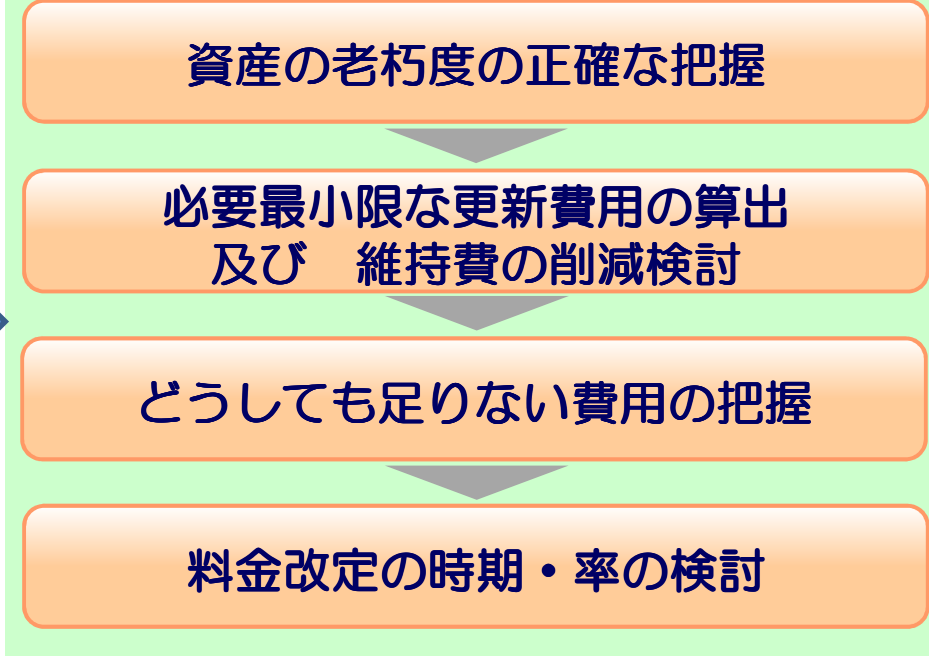


安全、強靱、持続の観点から、以下のような取組の検討が必要

水道事業を取り巻く
環境の変化

必要な取組の方向性

給水人口の減少に伴う
給水収益の低下



アセットマネジメント

一斉に迎える
施設・管路の老朽化

正確な資産状況の把握に基づく
更新の優先順位の決定

技術者の減少

民間のノウハウ等を活用した
業務標準化とマニュアル整備

14. 現ビジョンの概要と新ビジョン（案）との関係



■老朽化・耐震ニーズ
（予防保全）
■人口減少の顕在化
（収益悪化、技術者不足）

現ビジョン

- ①一元化事業の推進 **済**
 - ・新規水源の確保（水利権の獲得）
 - ・ありあけ浄水場の新設
- ②計画的な施設更新 **継続**
 - ・施設診断の実施
 - ・更新計画の策定・実施
- ③財政の健全化 **継続**
 - ・水道局と下水道課の統合
- ④民間活用の推進 **済**
 - ・ありあけ浄水場運営の民間委託

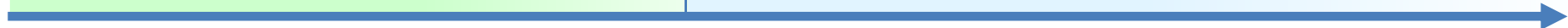
新ビジョン（案）

- ①**新** 予防保全による安定給水
 - ・老朽度を見極めた適切な保全方法の選択
 - ・給水を止めないためのメンテナンス強化
- ②**強化** 計画的な施設更新と耐震化
 - ・基幹施設の耐震対策の推進
 - ・更新の優先順位の検討
- ③**強化** 財政の健全化
 - ・投資の最適化
 - ・料金制度のあり方の検討
- ④**新** 地域水道を支える人材基盤確立
 - ・業務マニュアル等の整備・運用
 - ・官民のパートナーシップの深化
 - ・地域の人材雇用の推進

水道事業等包括委託開始⇒

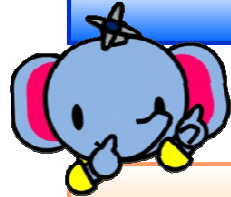
平成21年度

平成28年度



15.その他 必要と認識する取組の方向性

変えていく必要があると認識していること



いままでだ！

企業局から市民への
一方方向の情報通知

性善説に基づく施設管理

ありあけ浄水場開始に伴う
おいしい水の提供

平成3年度より変更していない
水道料金体系

民間事業者への
包括委託の開始

これからだ！

双方向コミュニケーションによる
施策反映の仕組み構築

テロを未然に防ぐ
セキュリティの強化

おいしい水の供給維持

子や孫の世代を見据えた
公平な負担を実現する
水道料金制度の検討

適切な官民の
パートナーシップの深化

